



水産大学校代表

鷺尾圭司

新入生の皆さん、水産大学校へようこそ！心から歓迎いたします。また、専攻科ならびに水産学研究科に進まれ、引き続きこの吉見の地で学び続けられる皆さん、これからも研鑽を積んでください。

本日ここに、水産庁長官の代理として井上清和研究指導課長に、下関市から芳田直樹副市長のご臨席をいただき、また本校の所属いたします水産研究・教育機構の宮原正典理事長にもご出席いただき、ご来賓の方々とともに入学式を挙行できますことを皆さんとともに感謝したいと思います。

さて、水産大学校に来たけれど、ここで何を学ぶのだろうかと不安に思う人もいるかと思えます。グローバル化して高度情報化社会とも言われている今日では、古い第一次産業など面白くないと思う人もいるかも知れません。しかし、地方大学が冬の時代と言われますが、皆さんの周りに 200 人近い同級生がいます。そしてキャンパス全体には 700 人ほどの先輩たちが元気に活動しています。将来への不安は誰しもありますが、これだけの人数が水産人を目指して努力しており、実績としても大多数が水産系業界に就職していることは、今の時代にも意義のあることだと思えます。

かくいう私は大学を出た後に兵庫県の明石市にある漁業協同組合に就職し、漁師たちと日々付き合ってきました。そのとき

の仲間は、500人あまりが1千万円プレーヤーです。中には皆さんと同年齢で2千万円を稼いでいる者もいます。全国を平均すると水産業の所得は低く見えますが、条件を整えばやりがいのある職業だといえます。

水産大学校では漁業や魚介藻類に直接携わる分野もありますが、食品加工や流通経済、水産機械など幅広い関連業界につながる分野をもっています。皆さんそれぞれの興味関心や、これから出会う新たな自分発見から、水産世界に羽ばたいていただきたいと思います。

本校は文部科学省ではなく、農林水産省が設置している機関なので、水産業界への幅広いチャンネルがあり、その人脈が皆さんの宝物になるはずです。全国に展開している水産研究所のプロの研究者とも接点を持ち、日本の海ばかりでなく、地球規模での活躍をイメージして、大いに学び、大いに遊んでもらいたいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様も、ご来賓の皆様も、この入学生の本校での成長と活躍をしっかりと見守っていただくことをお願いし、祝辞とさせていただきます。